

## 1 題材について

対 象 学 年	中学校 第 1 学年
学 習 指 導 要 領	第 1 学年の内容 A 表現 ( 1 ) 表現ウ、キ B 鑑賞 ( 1 ) ウ
題 材 名	我が国の伝統的な楽器のよさを味わおう～箏に挑戦～ ( 全 4 時間 ) 【教材名】 表現教材 : 「さくらさくら」 鑑賞教材 : 「六段の調」「さくら変奏曲」
題 材 目 標	箏独特の基礎的な奏法や美しい音色 ( 音の立ち上がり、一音一音の張り、余韻等 ) に関心をもち、箏による旋律の演奏に意欲的に取り組むことができる。 ( 音楽への関心・意欲・態度 ) 箏独特の基礎的な奏法や美しい音色 ( 音の立ち上がり、一音一音の張り、余韻等 ) を感じ取って、箏による旋律の演奏を工夫することができる。 ( 音楽的な感受や表現の工夫 ) 箏に親しむことを通して、基礎的な奏法を身に付けることができる。 ( 表現の技能 ) 箏の音や楽器の構造、多様な奏法などの特徴から、箏独特の音色や魅力に気付き、我が国の伝統音楽の固有のよさや美しさと結び付けて聴き取ることができる。 ( 鑑賞の能力 )
配 慮 事 項	基礎的・基本的な内容の確実な定着の工夫 題材指導計画作成上の工夫 ( 教材選択、教材配列、教材の時間配分等 ) ・「 3 年間を通じて 1 種類以上の和楽器を用いる」ということで「箏」を取り上げ、生徒が我が国の伝統的な音楽の音色のよさに気付き、興味・関心をもち取り組むことができるようにする。 ・ただ単に正しい指遣いで「さくらさくら」を演奏できるようにするだけでなく、箏独特の音色にこだわり、奏法を工夫して日本の音楽のよさに気付かせる活動を位置付ける。( 聴き比べをして箏の音色のよさに気付かせる。実際に箏を演奏して体験する。箏の美しい音色を出すために奏法を工夫し、箏の奏法から日本の音楽の固有の美しさに気付かせる。 ) ・箏の特質を理解し、より箏への興味・関心が深まるよう、本題材の最後の時間に「さくら変奏曲」の鑑賞 ( L D ) を位置付ける。 ・音色の美しさを出すコツを「弾く強さ」「弾く位置」「余韻」の 3 点に絞り込み、はっきりとした視点をもって取り組めるようにする。  単位時間における工夫 ( 音楽活動の基礎的な能力を伸ばす指導・援助等 ) ・一人あたりの練習時間を確保するため、2 ～ 3 人に 1 面の箏を準備する。 ・弦名を覚え、短時間で演奏できるよう、弦名の「一・二・三～斗・為・巾」を画用紙に書き、あらかじめ箏本体に貼る。 ・旋律のイメージをつかみやすくするために、「さくらさくら」の漢字譜と五線譜で表した楽譜が並記されたプリントを準備する。
参 考 資 料	資料 1 - 第 1 時に聴き比べをして気付いたことを記入するプリント 資料 2 - 第 2 時以降に相互評価、自己評価を記入するプリント

2 題材の評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能	エ 鑑賞の能力
器楽				.
鑑賞	.	.	.	
内容のまとめりごとの評価規準	<p>【器楽】 楽器の基礎的な奏法や楽器の美しい音色、声部の役割と全体の響きに関心を持ち、器楽や合奏の表現をすることに意欲的である。</p>	<p>【器楽】 音楽の構成要素・表現要素を知覚し、それらが生み出す曲想や美しさを感じ取っている。</p> <p>楽器の基礎的な奏法や楽器の美しい音色、声部の役割と全体の響きを感じ取っている。</p> <p>楽器の基礎的な奏法や楽器の美しい音色、声部の役割と全体の響きを感じ取って器楽や合奏の表現を工夫している。</p>	<p>【器楽】 楽器の基礎的な奏法や楽器の美しい音色に気を付けて器楽表現をする技能（読譜力を含む）を身に付けている。</p> <p>声部の役割と全体の響きに気を付けて合奏表現をする技能を身に付けている。</p>	<p>【鑑賞】 音楽の構成要素・表現要素の働き及びそれらが生み出す楽曲の雰囲気や曲想を意識し、楽曲を聴き取っている。</p> <p>我が国の音楽及び世界の諸民族の音楽における楽器の音色や奏法と歌唱表現の特徴から音楽の多様性を意識し、楽曲を聴き取っている。</p> <p>音楽をその背景となる文化・歴史などとかかわらせて聴き取っている。</p>
題材の評価規準	<p>箏独特の基礎的な奏法や美しい音色（音の立ち上がり、一音一音の張り、余韻等）に関心を持ち、箏による旋律の演奏に意欲的に取り組んでいる。</p>	<p>箏独特の基礎的な奏法や美しい音色（音の立ち上がり、一音一音の張り、余韻等）を感じ取っている。</p>	<p>箏に親しむことを通して、基礎的な奏法を身に付けている。</p>	<p>箏の音や楽器の構造、多様な奏法などの特徴から、箏独特の音色や魅力に気付く、我が国の伝統音楽の固有のよさや美しさと結び付けて聴き取っている。</p>
単位時間における具体の評価規準	<p>箏の音色の美しさや基礎的な奏法に関心をもっている。（器楽）</p>	<p>箏独特の音色（音の立ち上がり、一音一音の張り、余韻等）を感じ取っている。（器楽）</p>	<p>箏を演奏するための基礎的な奏法（爪の付け方、座り方、指遣い、親指の弾き方）を身に付けている。（器楽）</p> <p>美しい音色を出すための箏の基礎的な奏法（弾く強さ、弾く位置、余韻）を身に付けている。（器楽）</p>	<p>箏の音や楽器の構造、多様な奏法などの特徴から、箏独特の音色や魅力に気付く、我が国の伝統音楽の固有のよさや美しさと結びつけて聴き取っている。（鑑賞）</p>

3 指導と評価の計画（全4時間）

時	教材	ねらい	学 習 活 動	評価規準	評価方法	指導・援助
1	六段の調	<p>箏とピアノの音を聴き比べることによって、その音色や響きの違いから箏独特の音色に着目し、音の立ち上がり、一音一音の張り、余韻などの音色の美しさや特徴を感じ取ることができる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">日本の伝統的な楽器「箏」の魅力を見付けよう。</div> <p>「六段の調べ」の冒頭部分を箏で演奏したものと、ピアノで演奏したものとを聴き比べ、響きや音色の特徴を交流し合い、学習プリントにまとめる。</p> <p>箏について、各部名称、弦の名前、漢字譜、弾き方、座り方、奏法を知り、実際に箏に触れて音を出す。</p> <p>本時の振り返りをする。</p>	<p>イー 箏独特の音色（音の立ち上がり、一音一音の張り、余韻等）を感じ取っている。</p> <p>アー 箏の音色の美しさや基礎的な奏法に関心をもっている。</p>	<p>学習プリント 観察 ・箏とピアノの響きと音色の違いについての記述内容や発言内容から評価する。</p> <p>学習プリント 観察 ・進んで箏に触れ、音を出している姿から評価する。</p>	<p>生徒の発言内容を響きと音色に分けて板書し、ピアノと箏の音色や響きの違いが理解できるようにする。</p> <p>爪の付け方、座り方（箏に対して斜め45°）、右手の構え方（竜角に薬指を軽く添える）等について教師が実際にやって見せながら確認する。</p>
2	さくらさくら	<p>箏を演奏するための基礎的な奏法（爪の付け方、座り方、指遣い、親指の弾き方）を身に付けて、「さくらさくら」を練習することができる。</p>	<p>前時の復習をする。 ・「さくらさくら」を弾く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">「さくらさくら」を演奏できるようにしよう。</div> <p>教師の範奏を聴く。</p> <p>グループ全員が弾くことができるように、教え合いながら練習する。 ・弾き手とアドバイザーに分かれて練習する。 グループの中で相互評価する。 ・爪の付け方、座り方、指遣い、親指の弾き方 グループ内で順番を決めて一人ずつ演奏し、本時の成果を発表する。 ・弾き手とアドバイザーに分かれる。 本時の振り返りをする。</p>	<p>ウー 箏を演奏するための基礎的な奏法（爪の付け方、座り方、指遣い、親指の弾き方）を身に付けている。</p>	<p>観察 ・正しい爪の付け方、座り方、指遣い、親指の弾き方で演奏している姿から評価する。</p>	<p>画用紙に書かれた弦を指で弾く練習をさせる。 爪の付け方、座り方（箏に対して斜め45°）右手の構え方（竜角に薬指を軽く添える）等について、教師が実際にやって見せながら確認する。</p>

3	さくらさくら 本時	<p>美しい音色を出すためには、前に押して止めて弾いたり(弾く強さ) 竜角から3～5cmの所を弾いたり(弾く位置) 弾いた音の残響を聴いてから次の音を出したり(余韻)することが大切であることに気付き、一音一音張りのある凛とした音色を目指して演奏することができる。</p>	<p>前時の復習で「さくらさくら」を演奏する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>右手の奏法を工夫して、美しい音色を目指して「さくらさくら」を演奏しよう。</p> </div> <p>教師の範奏を聴く。</p> <p>美しい音色を工夫してグループごとに練習する。 ・弾き手とアドバイザーに分かれて演奏する。</p> <p>グループで順番を決め、一人ずつ演奏して相互評価する。 ・弾く強さ ・弾く位置 ・余韻</p> <p>本時の振り返りをする。</p>	<p>ウー 美しい音色を出すための箏の基礎的な奏法(弾く強さ、弾く位置、余韻)を身に付けている。</p>	<p>観察 ・グループを巡回して、弾く強さ(前に押して止めて弾く)、弾く位置(竜角から3～5cmの所を弾く) 余韻(前の音を聴いてから次の音を出す)を意識して演奏している姿から評価する。</p>	<p>爪の付け方、座り方(箏に対して斜め45°)右手の構え方(竜角に薬指を軽くのせる)等について教師が実際にやってみせながら確認する。</p> <p>「さくらさくら」が全部弾けない場合、始めの1フレーズについて、教師が弾いて見せたり、一緒に弾いたりする。</p>
4	さくら変奏曲	<p>箏の音や楽器の構造、多様な奏法などの特徴から、箏独特の音色や魅力に気付き、我が国の伝統音楽の固有のよさや美しさと結び付けて聴き取ることができる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>箏曲を鑑賞し、表現の豊かさを感じ取ろう。</p> </div> <p>「さくら変奏曲」を鑑賞(LD)する。 ・感想を学習プリントにまとめる。 ・感想を交流する。</p> <p>箏の学習のまとめをする。(感想文を書く)</p>	<p>エー 箏の音や楽器の構造、多様な奏法などの特徴から、箏独特の音色や魅力に気付き、我が国の伝統音楽の固有のよさや美しさと結び付けて聴き取っている。</p>	<p>観察、学習カード 観察 ・箏の音色、響き、奏法についての記入内容や発言内容から評価する。</p>	<p>左手の動きに着目させ、音色の変化に気付かせる。 左手の奏法(強押し、弱押し、後押し、引き色等)について名称と弾き方を板書し、実際に弾いて見せる。</p>

4 単位時間の授業展開例

(1) 本時のねらい

美しい音色を出すためには、前に押して止めて弾いたり（弾く強さ）、竜角から3～5cmの所を弾いたり（弾く位置）、弾いた音の残響を聴いてから次の音を出したり（余韻）することが大切であることに気づき、一音一音張りのある凜とした音色を目指して演奏することができる。

(2) 本時の位置 3 / 4時

(3) 展開案

週	学 習 活 動	評価について	指導・援助
つかむ	1 「さくらさくら」を演奏する。		
/ 高め	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">右手の奏法を工夫して、美しい音色を目指して「さくらさくら」を演奏しよう。</p> 2 教師の範奏を聴く。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2種類の弾き方を示して、弾き方や音色の違いを見付ける</li> <li>・ 気付いたことを交流する。</li> </ul> 3 グループで見合い、聴き合いながら練習する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 弾き手とアドバイザーに分かれて練習する。</li> <li>・ 弾き手は箏を演奏する。</li> <li>・ アドバイザーは弾き手に漢字譜を早めに教えたり、弾く強さ、弾く位置、余韻等についてアドバイスする。</li> </ul>	ウー 美しい音色を出すための箏の基礎的な奏法（弾く強さ、弾く位置、余韻）を身に付けている。  観察 ・ グループを巡回して、弾く強さ（前に押して止めて弾く）、弾く位置（竜角から3～5cmの所を弾く）、余韻（弾いた音の残響を聴いてから次の音を出す）を意識して演奏している姿から評価する。	爪の付け方、座り方（箏に対して斜め45°）右手の構え方（竜角に薬指を軽く添える）等について教師が実際にやって見せながら確認する。  「さくらさくら」が全部弾けない場合、始めの1フレーズについて、美しい音色が出せるように、教師が弾いて見せたり、一緒に弾いたりする。
/ まとめ	4 グループ内で順番を決め、一人ずつ演奏して相互評価する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 弾く強さ、弾く位置、余韻について、お互いの演奏を見合って評価し合い、学習プリントに記入する。</li> </ul> 5 本時の振り返りをする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習プリントに自己評価を記入する。</li> </ul>		

## 5 評価の実際と個に応じた指導事例

### (1) 本時重点的に取り上げた評価規準

評価規準<ウー >

美しい音色を出すための箏の基礎的な奏法(弾く強さ、弾く位置、余韻)を身に付けている。

### (2) 評価の実際

評価の方法

グループ練習の観察

- ・グループを巡回し、弾く強さ(前に押して止めて弾く)、弾く位置(竜角から3~5cmの所を弾く)、余韻(弾いた音の残響を聴いてから次の音を出す)を意識して演奏している姿から評価した。

判断の事例

Cと判断

- ・前の弦で止めて弾くのではなく、上に跳ね上げるようにして弾いている生徒をCとした。

Aと判断

- ・箏に対して斜め45°に座り、背筋を伸ばして左手を軽く箏に添えている。そして、前の弦で止めて弾き、余韻を聴きながら「さくらさくら」を最後まで間違えずに弾くことができる生徒をAとした。

### (3) 個に応じた指導の実際(Cと判断されるされる状況への働きかけ)

前の弦で止めて弾くのではなく、上に跳ね上げるようにして弾いている生徒に、以下のよう  
に働きかけた。

跳ね上げるようにして弾いた場合と前の弦で止めて弾いた場合の弾き方を教師が範奏し、2  
種類の弾き方とその音色の違いを見付けさせた。

教師がその生徒の右手の親指を持って一緒に弾き、前の弦で止めて弾く時の感覚をつかませ  
た。

掲示物等を使って、前時学習した姿勢(爪をしっかりとめる、箏に対して斜め45°位の角  
度で座る、背筋を伸ばす)を確認した。

以上の ~ について指導することにより、前の弦で止めて弾く感覚をつかみ、張りのある  
音が出せるようになってきた。また、指遣いを意識し始めると上に跳ね上げるような弾き方に  
戻ってしまう生徒には、「さくらさくら」の全てを演奏できなくても、始めの1フレーズのみ  
前の弦で止めて弾くことができればよいということをアドバイスした。

6 参考資料

< 資料 1 >

箏の魅力を見つけよう

我が国の伝統的な楽器のよさを味わおう～箏に挑戦～ 1

年 組 番氏名

- 1 日本の楽器「箏」とピアノの音色を聴き比べ、響きや音色について気づいたことを書こう。

曲名 ( )	
箏	ピアノ

- 2 学習の振り返りをしよう。

月 日 ( )
-----
-----
-----
-----

年 組 番 氏名

今日のめあて

「さくら さくら」が演奏できるようにしよう。

自分のめあて

--

1 グループで確かめよう。

座り方（斜め45°に座り、竜角の延長線上に右肩がくるあたり）	A	B	C
つめの付け方	A	B	C
右手の構え方（薬指と小指を竜角に軽くつける）	A	B	C
指づかいが正しくできた（「さくらさくら」をまちがえずに弾けた）	A	B	C

2 学習の振り返りをしよう。

月 日（ ）
-----
-----
-----
-----

今日のめあて

右手の奏法を工夫して、美しい音色を目指して「さくらさくら」を演奏しよう。

1 箏の美しい音色を出すためにはどうするとよいか。工夫することをまとめよう。

--

自分のめあて

--

2 グループで聴き合おう。

弾く強さ（前の弦に押し出すように弾く）	A B C
弾く位置（竜角の近くで弾く）	A B C
余韻（前の音が鳴るのを聴いてから次の音を出す）	A B C
指づかいが正しくできた	A B C
コメント： -----	

3 学習の振り返りをしよう。

月 日（ ）	
美しい音色を出すために工夫した	A B C
箏の美しい音色を出せた	A B C
-----	
-----	
-----	

